

知ってる?! 麦稈真田新聞



浅口市・金光学園中1年 田中 希莉子

麦稈真田から見えてくる昔の暮らし
一大生産地だった笠岡で麦の魅力に迫る!!

知ってる?!
麦稈真田新聞

平成30年11月28日発行
金光学園中学校1年 田中希莉子



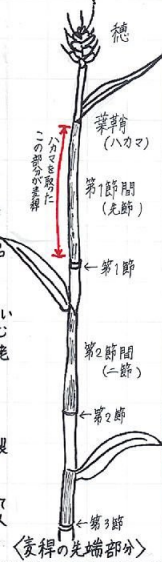
麦稈真田の歴史(参考文献 笠岡市史第3巻)

麦稈真田って何?

裸麦の稈(まわら)を材料にして編んだ真田ひものこと。主に麦わら帽子の材料に使われます。笠岡市小田郡、浅口郡など岡山県西南部を中心に農家の副業として盛んに生産され、欧米に輸出されていました。

どうして生産が多くなったか

- ① 冬に雪が少なく、気候は温帯で麦の収穫期に雨が多く、シミのない高品質の麦が採れた。
② 水田が狭く、排水性のよい乾燥性の並腹斜面は裸麦の栽培に適した。
③ 手作業に適する柔軟性を持ち、良品の真田ひもの編める品種を栽培していた。
④ 副業としては収入がよかった。
⑤ 年間を通していつでも老若男女を問わず儲けながら作業ができる。なればは手許を見なくても編むことができるし、先人にとっては手足を動かすことで老化防止にも効果があった。



麦の先端部分

麦の生産の衰退と現在

残念ながら中国からの安い輸入品、化繊製品やビール製品の出現といった影響から昭和の年後半以降、ほとんど生産されなくなった。

私の住む笠岡市でも、編作と製作の二毛作でたくさん生産されていた。今では、7割以上の人で専業が農業をしていた人が麦稈真田のことを知っているのみに留まりました。

私の初めての麦稈真田との出会い

Includes photo of a workshop and text: 出来た真田ひものは日が続くとさらさらと黄金色に輝いて... 私の初めての麦稈真田との出会い... 7月21日 笠岡市金光学園中

麦稈真田ワークショップから麦プロジェクト始まる!

9月2日に笠岡市の自然体験教室の会場で行われた麦稈真田ひものワークショップ... 麦プロジェクトが始まる...

笠岡市地域おこし協力隊
相澤 希子
活動を振り返る...

当時を知る人にインタビュー!!

高橋 志生さん(73歳)に聞きました。
「麦稈真田って、よく覚えてますよ。昔は、笠岡市や浅口市で...

Photo of Takahashi Shigeo with text: 今年築100年近くになる高橋さんの家族を撮影することになった...

1/3 刈り取った麦をまとめます。
1/4 元気に育てています。
1/5 麦を削り分けを編んでいきます。
1/6 麦を削り分けを編んでいきます...

1/7 編む方の指導、まです紙で練習します。色とりどり4枚の紐を編んでいきます。
1/8 麦を削り分けを編んでいきます...

編集後記
この写真の相澤さんのが... ミシマシオンを探しています?...

笠岡市の石田製帽を見学しました
相澤さん、帽子作りを学んでいる笠岡市小田郡の石田製帽の子達を見学しました...

麦わら帽子の材料となる「麦稈真田」に着目して生産の歴史や昔の暮らしをまとめ、地域の良さを

発信しています。麦生産プロジェクトや帽子作りの現場も取材し、充実した内容になっています。

寸評
(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。